

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月10日

【四半期会計期間】 第69期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 グローブライド株式会社

【英訳名】 GLOBERIDE, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 鈴木 一成

【本店の所在の場所】 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

【電話番号】 042 475 2115

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員管理本部長兼経理部長 谷口 央樹

【最寄りの連絡場所】 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

【電話番号】 042 475 2115

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員管理本部長兼経理部長 谷口 央樹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第68期 第2四半期 連結累計期間	第69期 第2四半期 連結累計期間	第68期
会計期間		自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高	(百万円)	74,320	67,876	134,583
経常利益	(百万円)	10,258	7,198	12,659
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	7,423	5,099	9,188
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	10,815	8,202	11,373
純資産額	(百万円)	47,619	55,013	47,485
総資産額	(百万円)	105,057	112,433	109,034
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	323.25	221.96	400.04
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	45.1	48.7	43.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	6,805	5,218	4,158
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,593	3,465	3,868
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,762	5,621	4,653
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	11,186	8,280	12,107

回次		第68期 第2四半期 連結会計期間	第69期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	133.71	68.97

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、各期とも潜在株式がないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

財政状態

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、主に棚卸資産の増加、有形固定資産の増加等により前連結会計年度末に比べ33億9千8百万円増加し、1,124億3千3百万円（前連結会計年度末は1,090億3千4百万円）となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことに加え、為替換算調整勘定の変動により前連結会計年度末に比べ75億2千7百万円増加し、550億1千3百万円（前連結会計年度末は474億8千5百万円）となりました。

経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ポストコロナの動きの中で経済活動の回復に期待がかかりましたが、依然として続く物価高・エネルギー高、及び為替市場の円安の影響等もあり、景気の先行きは楽観視できない状況となりました。海外においてはポストコロナの動きは先行しましたが、ロシア・ウクライナ情勢に起因するインフレ傾向や欧米各国における金融引き締め長期化、また中国経済における内外需要の低迷による景気減速など、コロナ後の経済回復に停滞感が見られる状況となりました。

こうした情勢の下、当社グループの属するアウトドア・スポーツ・レジャー業界の市況は、余暇の過ごし方が旅行や買い物など、これまで制限されていた他のスポーツ・レジャーへ分散したこと、また、物価高による家計への圧迫等の影響を受け、力強さに欠ける状況となりました。

そのような中、当社グループにおきましては、ライフタイム・スポーツ・カンパニーとして、自然とスポーツを愛する皆様に、魅力ある製品と質の高いサービスの提供を行ってまいりましたが、釣り具などのアウトドア・スポーツ・レジャー用品の需要減速や市場在庫の増加等の影響を受け、当第2四半期連結累計期間におきましては、売上高は678億7千6百万円（前年同四半期比8.7%減）となりました。利益面におきましては、減収による粗利益の減少や人件費等の費用の増加等により、営業利益は65億2千2百万円（前年同四半期比30.8%減）、経常利益は71億9千8百万円（前年同四半期比29.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は50億9千9百万円（前年同四半期比31.3%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。なお、各セグメントの売上高はセグメント間の内部売上高及び振替高を含んでおります。

日本

日本地域におきましては、行動制限の緩和により旅行など他のレジャーへの消費が多様化したことや、エネルギー価格や物価の高騰が家計を圧迫している状況であること等からアウトドア・スポーツ・レジャーの市況は力強さを欠く状況となっております。そのような中、当社グループは、お客様にご満足いただける新製品の投入とサービスの提供を行ってまいりました。フィッシングではスピニングリール「AIRITY」やバスロッド「STEEZ RC」、ゴルフでは「2023 ONOFF LADY」シリーズなどが多くのご注文をいただきましたが、売上高は438億5千6百万円（前年同四半期比8.7%減）、セグメント利益は、円安により輸入仕入費用が増加したこと等により、40億7千9百万円（前年同四半期比34.4%減）となりました。

米州

米州地域におきましては、経済が正常化する一方で、依然高水準なインフレ圧力による景気への影響が懸念される状況となりました。そのような中、米国市場向けにはバスフィッシング用品を中心に販売拡大の取り組みを行ってまいりましたが、売上高は72億9千8百万円（前年同四半期比14.7%減）、セグメント利益は9千8百万円（前年同四半期比71.7%減）となりました。

欧州

欧州地域におきましては、長期化するロシア・ウクライナ情勢が間接的な要因となって高水準なインフレ傾向が継続しており、消費行動にも影響を及ぼす状況となりました。そのような中、引き続き各地域のニーズに合った製品の投入等を行いました。売上高は81億7千4百万円（前年同四半期比1.9%減）、セグメント利益は4億2千7百万円（前年同四半期比30.4%減）となりました。

アジア・オセアニア

アジア・オセアニア地域におきましては、国ごとの社会経済情勢にばらつきが生じておりますが、金利の上昇、物価の上昇はアジアにおいても顕著となり、これまで堅調だったアウトドア・スポーツ・レジャーの市況にも減速感が出始めております。そのような中、当社グループにおきましては、日本製の高級品や現地専用品を中心に売上拡大に取り組んでまいりましたが、売上高は248億8千5百万円（前年同四半期比9.2%減）、セグメント利益は34億8千万円（前年同四半期比16.6%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ38億2千6百万円減少し、82億8千万円（前連結会計年度末は、121億7百万円）となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益を71億9千2百万円計上したこと等により、52億1千8百万円の収入（前年同四半期は68億5百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産を取得したこと等により、34億6千5百万円の支出（前年同四半期は15億9千3百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金を返済したこと等により、56億2千1百万円の支出（前年同四半期は17億6千2百万円の支出）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1,066百万円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	24,000,000	24,000,000	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は 100株であります。
計	24,000,000	24,000,000	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年9月30日	-	24,000,000	-	4,184	-	-

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を除く。) の総数に 対する所有株式 数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	2,552	11.10
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	1,233	5.36
丸紅株式会社	東京都千代田区大手町1丁目4-2	1,158	5.04
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	1,125	4.89
住友生命保険相互会社 (常任代理人 株式会社日本カスト ディ銀行)	東京都中央区八重洲2丁目2-1 (東京都中央区晴海1丁目8-12)	914	3.98
グロープライド取引先持株会	東京都東久留米市前沢3丁目14-16	880	3.83
日本生命保険相互会社 (常任代理人 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目6-6 (東京都港区浜松町2丁目11-3)	445	1.93
株式会社みずほ銀行(常任代理人 株 式会社日本カストディ銀行)	東京都千代田区大手町1丁目5-5 (東京都中央区晴海1丁目8-12)	433	1.88
グロープライド従業員持株会	東京都東久留米市前沢3丁目14-16	416	1.81
NORTHERN TRUST GLOBAL SERVICES SE, LUXEMBOURG RE CLIENTS NON-TREATY ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支 店 カストディ業務部)	10 RUE DE CHATEAU D'EAU L-3364 LEUDELANGE GRAND DUCHY OF LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	405	1.76
朝日インテック株式会社	愛知県瀬戸市暁町3番地100	405	1.76
計	-	9,971	43.39

(注) 1 当社は自己株式1,020千株を所有しており、上記大株主から除外しております。

- 2 次の法人から2023年6月22日付で大量保有報告書の変更報告書が公衆の縦覧に供されておりますが、当社として当第2四半期会計期間末における実質所有状況の確認ができません。なお、当該大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

大量保有者	野村アセットマネジメント株式会社他2社
報告義務発生日	2023年6月15日
保有株券等の数	1,924,149株
株式等保有割合	8.02%

- 3 次の法人から2023年9月7日付で大量保有報告書の変更報告書が公衆の縦覧に供されておりますが、当社として当第2四半期会計期間末における実質所有状況の確認ができません。なお、当該大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

大量保有者	アセットマネジメントOne株式会社他2社
報告義務発生日	2023年8月31日
保有株券等の数	1,170,942株
株式等保有割合	4.88%

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,020,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 22,870,700	228,707	-
単元未満株式	普通株式 109,200	-	-
発行済株式総数	24,000,000	-	-
総株主の議決権	-	228,707	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式54株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) グロープライド株式会社	東京都東久留米市前沢 3丁目14-16	1,020,100	-	1,020,100	4.25
計	-	1,020,100	-	1,020,100	4.25

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,875	9,227
受取手形及び売掛金	12,956	16,367
電子記録債権	243	366
商品及び製品	34,274	36,638
仕掛品	4,397	4,073
原材料及び貯蔵品	5,487	4,776
その他	3,998	3,377
貸倒引当金	494	587
流動資産合計	73,738	74,241
固定資産		
有形固定資産		
土地	5,484	5,504
その他(純額)	17,671	20,101
有形固定資産合計	23,156	25,606
無形固定資産		
その他	1,725	1,626
無形固定資産合計	1,725	1,626
投資その他の資産		
投資有価証券	5,059	5,860
退職給付に係る資産	98	108
その他	5,296	5,030
貸倒引当金	39	39
投資その他の資産合計	10,413	10,959
固定資産合計	35,296	38,192
資産合計	109,034	112,433

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,151	5,782
電子記録債務	8,882	8,915
短期借入金	18,414	15,923
未払法人税等	1,325	925
賞与引当金	927	1,080
役員賞与引当金	47	25
その他	8,941	8,372
流動負債合計	44,690	41,026
固定負債		
長期借入金	9,599	7,959
退職給付に係る負債	5,645	5,651
その他	1,612	2,782
固定負債合計	16,857	16,393
負債合計	61,548	57,419
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,184	4,184
資本剰余金	13	27
利益剰余金	38,190	42,600
自己株式	884	879
株主資本合計	41,503	45,932
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,438	3,050
繰延ヘッジ損益	16	124
土地再評価差額金	1,977	1,977
為替換算調整勘定	1,479	3,783
退職給付に係る調整累計額	85	77
その他の包括利益累計額合計	5,793	8,859
非支配株主持分	189	221
純資産合計	47,485	55,013
負債純資産合計	109,034	112,433

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	74,320	67,876
売上原価	47,095	42,615
売上総利益	27,225	25,260
販売費及び一般管理費	17,802	18,738
営業利益	9,423	6,522
営業外収益		
受取利息	17	31
受取配当金	56	67
不動産賃貸料	3	3
為替差益	744	793
その他	350	220
営業外収益合計	1,172	1,115
営業外費用		
支払利息	109	252
固定資産除却損	71	14
デリバティブ評価損	129	123
その他	26	49
営業外費用合計	337	438
経常利益	10,258	7,198
特別利益		
固定資産売却益	4	0
投資有価証券売却益	18	-
特別利益合計	22	0
特別損失		
固定資産売却損	6	4
減損損失	-	2
特別損失合計	6	6
税金等調整前四半期純利益	10,274	7,192
法人税、住民税及び事業税	2,837	2,070
四半期純利益	7,437	5,121
非支配株主に帰属する四半期純利益	13	22
親会社株主に帰属する四半期純利益	7,423	5,099

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	7,437	5,121
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	164	611
繰延ヘッジ損益	88	141
為替換算調整勘定	3,451	2,319
退職給付に係る調整額	2	8
その他の包括利益合計	3,378	3,081
四半期包括利益	10,815	8,202
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,783	8,164
非支配株主に係る四半期包括利益	32	38

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	10,274	7,192
減価償却費	1,554	1,915
貸倒引当金の増減額(は減少)	2	44
賞与引当金の増減額(は減少)	151	141
役員賞与引当金の増減額(は減少)	4	21
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	12	9
受取利息及び受取配当金	73	98
支払利息	109	252
為替差損益(は益)	341	277
有形固定資産売却損益(は益)	2	3
有形固定資産除却損	71	14
減損損失	-	2
売上債権の増減額(は増加)	4,639	2,509
棚卸資産の増減額(は増加)	1,923	672
その他の流動資産の増減額(は増加)	1,919	757
仕入債務の増減額(は減少)	1,694	787
未払金の増減額(は減少)	1,120	1,792
その他の流動負債の増減額(は減少)	1,277	1,006
預り保証金の増減額(は減少)	12	1
その他の営業外損益(は益)	3	3
投資有価証券売却損益(は益)	18	-
その他	251	143
小計	9,185	6,648
利息及び配当金の受取額	73	98
利息の支払額	110	262
法人税等の支払額	2,346	1,269
その他の収入	3	3
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,805	5,218

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	15	134
定期預金の払戻による収入	413	0
有形固定資産の取得による支出	1,728	2,942
有形固定資産の売却による収入	11	9
無形固定資産の取得による支出	302	311
投資有価証券の売却による収入	27	-
貸付けによる支出	6	27
貸付金の回収による収入	2	2
その他	3	62
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,593	3,465
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	95,080	81,756
短期借入金の返済による支出	97,023	84,519
長期借入れによる収入	3,000	400
長期借入金の返済による支出	1,987	2,413
自己株式の取得による支出	1	2
自己株式の売却による収入	-	0
配当金の支払額	686	688
その他	143	153
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,762	5,621
現金及び現金同等物に係る換算差額	587	41
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	4,037	3,826
現金及び現金同等物の期首残高	7,149	12,107
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,186	8,280

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
従業員給料手当	4,841百万円	5,129百万円
貸倒引当金繰入額	44百万円	53百万円
賞与引当金繰入額	548百万円	579百万円
退職給付費用	272百万円	294百万円
役員賞与引当金繰入額	23百万円	25百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金勘定	11,872百万円	9,227百万円
預入期間が3ヶ月超の定期預金	685百万円	946百万円
現金及び現金同等物	11,186百万円	8,280百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年5月13日 取締役会	普通株式	688	30.00	2022年3月31日	2022年6月8日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月8日 取締役会	普通株式	689	30.00	2022年9月30日	2022年12月6日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年5月12日 取締役会	普通株式	689	30.00	2023年3月31日	2023年6月8日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年11月8日 取締役会	普通株式	804	35.00	2023年9月30日	2023年12月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	米州	欧州	アジア・ オセアニア	
売上高					
顧客との契約から生じる収益	43,121	8,551	8,332	14,315	74,320
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	43,121	8,551	8,332	14,315	74,320
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,903	4	-	13,082	17,990
計	48,024	8,555	8,332	27,398	92,311
セグメント利益	6,218	347	614	4,174	11,355

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	11,355
セグメント間消去及び全社費用(注)	1,932
四半期連結損益計算書の営業利益	9,423

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	日本	米州	欧州	アジア・オセアニア	
売上高					
顧客との契約から生じる収益	37,128	7,294	8,174	15,279	67,876
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	37,128	7,294	8,174	15,279	67,876
セグメント間の内部売上高又は振替高	6,728	3	-	9,606	16,338
計	43,856	7,298	8,174	24,885	84,214
セグメント利益	4,079	98	427	3,480	8,086

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	8,086
セグメント間消去及び全社費用(注)	1,563
四半期連結損益計算書の営業利益	6,522

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	323円25銭	221円96銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	7,423	5,099
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	7,423	5,099
普通株式の期中平均株式数(株)	22,966,128	22,973,726

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

第69期（2023年4月1日から2024年3月31日まで）中間配当について、2023年11月8日開催の取締役会において、2023年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	804百万円
1株当たりの金額	35円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2023年12月6日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月10日

グロープライド株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 林 一 樹

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野 村 充 基

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているグロープライド株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、グロープライド株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。